

競技・審判上の確認

競技委員長 嵯 峨 亘 道

審判委員長 川 島 秀 夫

1 競技規則について

- (1) 2026年度 公益財団法人 日本バレーボール協会6人制競技規則により実施する。ただし、ネットの高さは男子2m43cm、女子2m24cmとする。本大会はすべて3セットマッチとし、大会初日から3日目まではワンボール・システムとし、最終日はファイブボール・システムとする。また、大会使用球は、男子は『ミカサ製カラーボール「V300W」』、女子は『モルテン製カラーボール「V5M5000」』とする。

2 チーム構成について

- (1) チームは、監督・コーチ・マネージャー・トレーナー各1名、選手18名以内とし、試合毎に14名以内の選手をコンポジションメンバーシート〔COMPOSITION MEMBER（構成メンバー表）〕にエントリーする（コンポジションメンバーシートは競技本部に用意されているためチームで持参する必要はありません）。なお、監督・コーチがともに外部指導者の場合は引率責任者（校長が認める当該校の職員、又は校長から引率を委嘱された「部活動指導員」（学校教育法施行規則第78条の2に示された者）を届け出なければならない。
- (2) 構成メンバー14人のうち、外国人留学生は2名までとし、コートへの出場はそのうちの1名に限る。
- (3) 参加申込書に記載された監督・コーチ・マネージャーの変更がある場合、**チームスタッフ変更届を11月2日(月)の代表者会議の受付時に提出すること**（変更がない場合でも提出してください）。
- (4) 各試合のエントリーは、第1試合はプロトコール30分前、第2試合以降は、前の試合の第1セット終了までに競技本部に用意された各チームのコンポジションメンバーシートによりエントリーすること。また、試合が連続する場合は、試合終了後すみやかに提出すること。コンポジションメンバーとは、試合毎にエントリーされたメンバーである。

3 競技参加者について

- (1) 監督・コーチ・マネージャーは各1名、選手14名以内とする。監督・コーチは当該高等学校の職員又は外部指導者とする。外部指導者の場合は道高体連災害補償制度もしくは傷害・賠償責任保険（スポーツ安全保険）等に必ず加入することを条件とし、当該高等学校長および高体連バレーボール専門部長の承認を得なければならない。マネージャーは当該校の校長が認めた外部指導者、教職員もしくは生徒とする。なお、引率責任者・トレーナーはベンチに入ることはいできない。
- (2) 監督・コーチ・マネージャーは、それぞれが左胸にマークをつけなければならない。
- (3) 監督はスコアラズテーブルに最も近い位置でチームベンチに座る。ただし、ラリー中であっても試合を妨げない、または遅延させない限り、自チームベンチ前のアタックラインの延長線から競技コントロールエリアまでのコーナーにあるウォームアップエリアまでのフリーゾーン内で立ちながらも歩きながらも指示を出すことができる。ただし、ラインジャッジの判定に影響がある場所には立たないこと。
- (4) ベンチスタッフは、ネクタイ及びジャケットを着用するか、統一された服装で襟付きのものを着用する。Tシャツ等の襟のないものや、短パン、ハーフパンツ等は許可されない。マネージャーが生徒の場合は、制服または選手ウェアと同じジャージが望ましい。

4 コートワイピングについて

- (1) コート内の選手が、ラリー終了からサービス許可までの間に行う。ただし、コンポジションメンバー以外の登録されたメンバーから最大2名までクイック・モップパーとしてベンチの両側に配置できる。1名の場合は監督席と記録席の間に配置しワイピングを迅速に行う。服装は、試合用ユニフォーム以外の統一された服装とする。クイック・モップパーは、モッピングが目的なので応援等はできない。
- (2) タイムアウト中、およびセット間にモップを使ってモッピングを行う場合、クイック・モップパーが行うことが望ましい。クイック・モップパーがいない場合は、競技者あるいはベンチスタッフがモップを使って行っても良い。

5 リベロ・プレーヤーについて

- (1) 正規の競技者とリベロ競技者の人数については、以下のとおり。
 - ①登録12名の場合、リベロ競技者の人数は0名・1名・2名のいずれでも良い。
 - ②登録13名及び14名の場合、リベロ競技者の人数は2名でなければならない。
- (2) リベロ・プレーヤーは、チームキャプテンにもゲームキャプテンにもなることができる。
- (3) リベロ・プレーヤーは、チームの他の選手とは明らかに対照的な色のユニフォームを着用しなければならない。対照的な色でない場合は、競技委員・審判委員の判断で、ベストの着用を指示することがある。
- (4) 本大会は、アシスタント・スコアラーを補助役員生徒や参加チームが担当するので、交代する時はサイドライン上で一度、対になり立ち止まる。また、タイムアウト後は、前ラリーの状態に戻り、その後に交代する。

6 試合前の練習等について

- (1) 大会1日目について、全ての試合においてプロトコールを含め30分間の練習時間を確保する。第1試合は12:30に練習を開始する。プロトコールは12:49に行い、13:00に試合を開始する。第2試合以降は、いわゆる「追い込み」で行う。前試合終了後、コート準備が整い次第練習を開始し、プロトコールを含め30分間の練習を行う（前の試合の終了後は大会役員によるコートチェック等の確認作業があるため、チームは競技委員や審判委員からの指示があるまでコートに入らないこと）。また、近接したコートにボールが入らないように可能な限りボールキーパーを配置すること。
- (2) 大会2日目について、第1試合は8:20に練習を開始する。プロトコールは8:49に行い、9:00に試合を開始する。第2試合以降は大会1日目と同様に進行する。なお、サブアリーナは第4試合で終了し、その後は使用できないものとする。
- (3) 大会3日目については、第1試合は8:20に練習を開始する。プロトコールは8:49に行い、9:00に試合を開始する。第2試合以降のチームはメインアリーナで行っている次の試合に出場するチームのみ、サブアリーナでボールを使った練習を行うことができる。第2試合以降は追い込みとし、前の試合が終了したあと公式練習前のおよそ10～15分間、ボールを使った練習を行うことができる。
- (3) 大会4日目について、3日目同様全試合を追い込みで行う。第1試合のチームは、コート設営終了後、試合開始前にアリーナにて、ボールを使った練習を行う。プロトコールは8:49に行う。第2試合以降のチームはメインアリーナで行っている次の試合に出場するチームのみ、サブアリーナでボールを使った練習を行うことができる。第2試合以降は、前の試合が終了したあと、公式練習前のおよそ10～15分間、ボールを使った練習を行うことができる。ネットの上げ下ろしがある際のコート練習の開始については、競技委員や審判委員の指示に従うこと。
- (4) 公式練習には構成メンバー以外の登録メンバーも、ボールキーパー（ユニフォーム以外の服装で行う）として練習に参加することができる。ただし、ボールキーパーはコート外でボールを拾うことのみが許される。
- (5) 両チームが別々に公式練習を行う場合、ネットを使用して練習しているチームの妨げにならないよう、もう一方のチームはエンドライン後方のフリーゾーンまたは自チームベンチ前にてウォームアップを行う。

7 その他

- (1) コートオフィシャルについて（アシスタント・スコアラー2名、ラインジャッジ4名、点示2名、の計8名）
 - 1) 大会初日・大会2日目・3日目
第1試合は第3試合のチームから半分ずつ。第2試合以降は前試合の敗退チームが行う。
 - 2) 大会4日目
審判委員および補助役員生徒が行う。
- (2) 観戦について
 - ①指定観戦エリアでの観戦は、試合を行っている当該チームのみ許される。
 - ②部旗・のぼりについては、試合を行っている当該チームのものを優先とする。なお、サブアリーナでは、いわゆる「鳴り物」は試合の妨げになるので使用しないこと。
- (3) チームプラカードは、全試合で使用。試合の際はベンチ最後尾のプラカード立てに立てるものとする。